



市民がつくるまちづくり情報誌

コミュニティくさつ

2010年

夏号

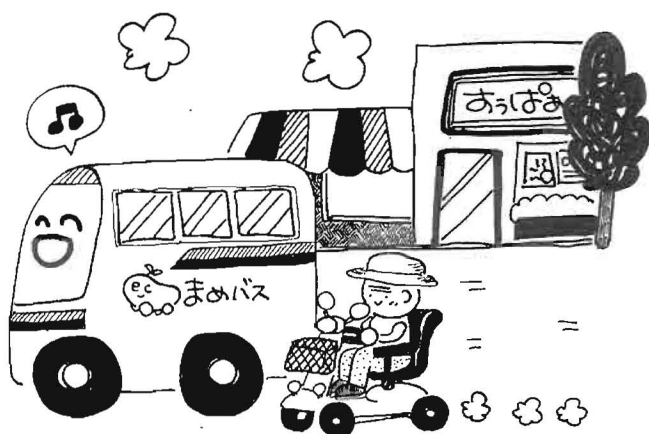


まめバスを降りて買物に向かうおばあちゃん (左)

スイスイと走るまめバス (右上)

車イスによるバリアフリー調査の様子 (右下)

写真：大條紀史



今号のイラスト

絵：大村恵

もくじ

- ②③ せまい道でもこまめにス～スイイ
まめバスの今とこれから
- ④⑤ 行きたくても行けない いつかそんな日が…
山田21まちづくり推進委員会 岡進一さん
- ⑥⑦ 座談会 ハードとハートでバリアフリー
- ⑧ 俳句散歩「夏」
- ⑨ 動植物から学んで素敵なヒトになろう 最終回
- ⑩⑪ ゆっくり草津街道物語⑪
「すりと過去へ 矢倉～矢橋道」
- ⑪ 動植物から学んで素敵なヒトになろう
- ⑫ 熊谷栄三郎の徒然草津(新コーナー)



せまい道でもこまめにス～イスイ

まめバスの今とこれから

まめバスキャラクター
eco まめ

草津のまち中をス～イスイと、こまめに走るかわいいまめバスをもう見ましたか？実はこのまめバス、今回の編集会議でも話題が集中ということで念願の取材が実現です。

草津市役所（交通政策課）の松尾さん、吉田さんを訪ねました。



地域に愛されてこそ

いつまで車に乗れるんだろう
高齢化社会を迎え、「自分もいつまで車に乗れるのか」という不安が現実的になってきた人もいるのではないだろうか。買い物、通院など移動に車は欠かせない現実があります。車を手放すとき暮らしを支える公共交通がないと…こんな不安を感じる人もいると思います。

まめバスは路線バスのバス停から300m以上離れた「交通空白地」と言われる地域や駅への運行便数が少ない「不便地」を中心に現在7路線、13系統を走っています。

バスも10～26人乗りの比較的小さなもので、車高も低く車イスの人や高齢者も楽に乗り降りできるようになっていきます。

まめバスが通る道は、地元の人たちと

相談し、地域公共交通会議に諮って決めました。スーパー、病院、郵便局、農協など日々の生活に身近なところに停まるのが大きな特徴です。その身近さはバス停の名称にも表れていて、「渡海神社前」「へそ塚公園」など地元の人に分かりやすく、なじみ深いユニークな名称もあります。ただバスを走らせるには様々な法的ルールやかわいいまめバスでも曲がりきれない狭い道など、様々な制約の中でのルート設定で、利用者の要望にこたえきれないのも悩ましいところです。

まめバスで実現！
久しぶりの外出

まめバスについては、市民の皆さまから、たくさんのご意見やご要望をいただいています。その中で、お礼の電話や葉書もいただいています。ある高齢者からの電話で「まめバスが家の近くまでくるようになったので、5～6年ぶりに外出してみた。まめバスで駅まできたら次は電車に乗りたくなくて京都に行った。京都の様子も大きく変わった。」



まめバスの車窓から。せまい道でもス～イスイ。でも運転手さんは緊張です。

ていて驚いたが、こうして久しぶりに自分で外出したのもまめバスのおかげです。」と感謝していただきました。

温かな触れあいの場、取材を終えて、

そうそう「まめバス」と言えばパッと目を引くあのキャラクター、かわいいですね。名前は「EC Oまめ」、コンセプトは「せまい道でもこまめにスイスイ 小粒でもしっかりバリアフリー まめにつかって、エコライフ」とか。

なんとこのキャラクターの生みの親は市役所の職員さん。歌まであつて作詞作曲も市役所の職員さんが手がけたとか。私たち同様、市もこのまめバ



まめバスや公共交通について語る
吉田さん（左）と松尾さん（右）。

スにかける期待が
よくわかりますよ
ね。市だけでは
ありません。ま
めバスが生まれ
た10月28日にち
なみ、毎月28日
には「まめバス
の日」と名付け、
特典ポイントをつ
けている商店街も
あります。
取材前、編集
ボランティアの仲
間が全路線に乗っ

まち中でよく見かけるようになったまめバスのバス停。
停留所の名前もその地ならではの身近さ。



たそうです。その人は言いました、「まめバスの中でお客さんと運転手さんが挨拶を交わしているのを見て、とても気持ち良かった」と。毎日、まめバスに乗る人の間には「バス友」も生まれつつあるとか。

バスの太きさの加減で、人と人が触れあうのにちょうどいい空間と時間なのかも知れません。でも思うのです。程よい空間と時間があれば人は触れ合えるのだろうか。きっと、まめバスを走らせるのに尽力した人、乗る人、運転する人…これに関わる一人ひとりが「今と将来の生活を支える身近な移動手段として大切に育んでいきたい」という愛情が温かな触れあいの場をつくっているのではないかと。

そう考えたとき「コミュニティバス」の本当の意義がわかったような気になったのです。（中井 徹）



次のステップへ まめバスの有料化実験をはじめます！

昨年（平成21年）10月から社会実験として無料で利用いただいたまめバスですが8月2日から実験的に一律200円となります。無料時期との利用状況なども比較調査し、社会実験の終了する24年3月以降どのようにしていくのか検討し、本格運行に移っていく予定です。

この運賃についても「乗り継ぎのときはどうするのか、ごく短い距離の場合はどうするのか」などこれからの課題もありますし、また「うちの近くの路線は利用が少ないようなので廃止になるのではないか」という不安をお持ちの方もおられると思いますので、アンケートで皆さんの声を聞かせていただく予定です。私たちは人々が交わり心の通う社会をめざして、持続性のある公共交通システムを構築していきたいと思っています。

- ・ おとな（中学生以上） 200円 ・ 小学生 100円 ・ 未就学の子ども 無料
- ・ 身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳を持っている人は証明書の提示で半額

* お問合せは草津市（交通政策課）電話 561-2343 / ファックス 561-2487 まで

行きたくても

行けない

いつかそんな日が…

山田地域の高齢化の現状

草津市の西部に位置する山田地域は湖南幹線を挟んで東側は都市化が進み、西側は農村地域となる混住地域です。特に浜街道より琵琶湖側の農家の高齢化は深刻で、山田で有名な草津メロンをはじめとしたビニルハウス栽培も後継ぎがなく、ハウスが荒れたまま放置されているのが目につきます。



景観も良くないですね。ただ田畑については圃場整備がされているおかげで機械が入ることができるし、水道も整備もされています。近年、農業会社が入り外国人や学生を雇うなど新しい労働力による農業がはじまっています。

私のように高齢になっても地域の中で楽しく生き生きと活動できるように、またみんなが安全で安心な地域になっていくために何ができるのか考えていかなければと思います。山田21まちづくり推進委員会の活動を始めています。

ふらふらと危なっかしい …自転車での買物

市民センターのやさらぎ学級に来る高齢者は口々に「買物がしんどい」と言われます。

まめバスがハズイの敷地内を通過するので買物に行く人もいますが、都合の良い時間と多少ズレもあり、日々の買物にはまだ利用しにくい面も残っています。これま

山田21まちづくり推進委員会

岡進一さん

岡進一さん

山田在住で町内会長を務めていた岡さんは、2年前から「山田21まちづくり推進委員会」で地域のまちづくり活動に関わるほか、障がい者の送迎ボランティアなど精力的に活動。地域公共交通会議のメンバーとして「まめバス」導入について検討されるなど、「まちの移動」についても関心が高い。過去には山田学区自治連合会長も経験。

で自転車で行っていた買物も、ふらふらと危なっかしくなり今では車を使わないと行けない人も多くなってきたということ。でも山田を通るまめバスは比較的、利用率は高いんじゃないかな。まめバスでメロンを買いに来る人やウォーキング目的でまめバスに乗って駅まで行き、歩いて帰ってくるという人も（笑）。

2年後にはまめバスの実証運行は終了するみたいですが、地域の人の移動を支えるためには、「利用しやすいように」また「それを支えるためには」と地域の私たちも真剣に考えていかなければならないと思っています。

個人的にまめバスは「外へ行きたいけれど歩いて行くにはちょっと無理」と感じる人が利用するものだと思います。まめバスにちょっと拾ってもらえるくらいの感覚で、安心して利用できる地域の密着

した移動手段であってほしいと願っています。

どんなに地域が必要としても採算がとれるかと言えはまた別の話です。ただ「利用客が少ないからこの路線は廃止」といった視点では割り切れないところがコミュニティバスにあると思う。だから市もすぐ結果を出さないでほしいと思うし、地域としてもできることをしっかりと考えていきたい。市内をよく見渡せば路線バスやまめバスだけでなく、生協のシャトルバス、あおばな館やなごみの郷あるいは大きな病院の送迎バスなど市内には色々なバスが走っていることに気づきます。うまく協力できればみんなが移動しやすくなるのではないかと期待もしたいところです。



そのとき自分はどうすればいいのか

地域の活動とは別に社会福祉協議会で障がい者の送迎ボランティアをしています。「年をとると当然、足腰が弱くなる。自分もいずれ車に乗ることができなくなると誰かに送迎してもらうことになる。送迎される側になったとき、自分がどのように接すればお互い気持ちの良い関係をつくれるのか」と漠然と感じたことがきっかけでした。この活動をはじめると障がいの程度や種類は人それぞれでも、交通手段がその人の杖となっていることを痛切に感じます。

送迎ボランティアは顔を見ながら接するので心が通じあい、本当につれしそくに感謝の気持ちを伝えてくれます。この活動からも自宅から目的地までの「ドア・ツー・ドア」で心地よく行けるよう地域が支えなくてはと改めて感じました。

浜街道を横切って

「ゴミ」を出すおばあちゃん

昔は「もらい風呂」などの風習もあって近所の家族構成などがよくわかっていたし、三世代で住んでいる家も多かった。今では山田地域でも老夫婦だけの二人住まいが多くみられるようになりました。支えあいの分母が小さくなっています。地域の高齢者がシニアカーで移動するのを見るとまちの緑石

や段差が気になります。

毎回、交通量の多い浜街道を横切って集積所に「ゴミ」を持っていくおばあちゃんが気になるし、一人で持ち切れず一輪車で「ゴミ」出しにくる高齢者もいると聞くと「転んだら、事故にあつたら」とヒヤヒヤします。

山田の10年後の移動の姿を考えるのは「ここに住む私たち一人ひとりの責任だと思っています。行政に頼るだけでなく住民同士で気づき、できることからすれば良いと思っています。たとえ独り住まいでも寝たきりや閉じこもりにならず、好きな時に好きなところへ行けるまちを、みんなが支え合っていることは何かと考えていると「まちの見方」が変わってきたように思う今日この頃です。

(茶木修二)

からだはまるいころと
歌い踊ってまんまるに
ころもころも
まんまるに
行きたいところへ
ゆきましよう

(絵と字) 中村明雄



座談会



ハードとハートで

バリアフリー

とある3月のある日。まちづくりセンターのサロンには多くの人。車イスに乗る人、主婦、退職後の男性、学生さんらしき人に市役所の人…とメンバーもマチマチなら初対面の挨拶をされる光景も。実はこれ、道路などのバリアフリー調査にこれから参加しようとする面々。この調査は草津駅周辺で、旧草津川沿いのエリアを15ブロックに分け、5日間に渡り車イス利用者とボランティア併せて延べ100人が参加し行われました。

市民やNPO、行政と一緒に現地を歩いて調査をし、バリアフリーマップをつくるというのは市でも初めての取り組みで、また障がいの有無に関係なく、多くの参加者が生活空間の中で「移動すること」を改めて考えさせられる調査となりました。

今回はこの調査に参加された市民ボランティア、実際に事業を進められたNPO（*）、そして事業を発注した市役所（道路課）の方を交えた座談会を開催し、このバリアフリー調査を通じて感じた「生活空間の移動」について考えてみました。



数値では表しきれない使い勝手

●市にお聞きします。今回、NPOと一緒に進められた理由は何？

▼これまで、こういった調査や道路の計画づくりなどはコンサルタント会社に依頼することが多かった。そしてプロとして綿密な計算に基づき理論をまとめあげていくものに仕上げる。でも道路の使い勝手というのは計算だけでは分からない。感覚的なものは数値では表されない。

今回は日々の生活の中で実際に道路を使う住民の目線、障がい者や高齢者、ベビーカーを押す子育て中の人などの感覚を取り入れたマップを作りたい。マップは作っても活用されなければ意味がない。使う人の視点にたった仕上げや行政にはないネットワークといったものを期待して今回、NPOをお願いした。

▼近年制定されたバリアフリー新法では交通や公共・民間の施設などにおいてハード面でのバリアフリー化はもとより心の面での意識改革にまで及んでいる。

また今まで道路が整備されたときには、そのスペースの花も緑も市が決めてきた。最近ではあるところで、道路の整備に伴ってきたスペースをどうしていくのかを地元地域の人たちと一緒に考え、整備を行ったところもあります。そうすることで地域の人たちも整備後、自主的に水やりをしたり手入れをしてくれたりと愛着にもつながっている。

これは「一緒に考える」からこそ生まれるもの。安心安全な



それぞれのグループの感想を出し合う

*（特活）アイ・コラボレーション

ITを通じ障がい者の「働く場」や「社会参加の場」を提供することを目的としたNPO。市内に本部事務所。詳しくはこちら <http://www.i-collabo.com/>

座談会 6月25日 まちセン ふらっとサロン

（参加ボランティア）長谷川・橋詰・大條

（NPO）山本・前野・平井（草津市）間宮・松尾

（当編集部）辻浦・中井・荒川・茶木



車イス利用者とボランティアと一緒にまちへ出ます

まちをつくっていくには、みんなで取り組んでいくことが大切だと思う。

「後回し」や「我慢」を押しつける

●皆さんにお聞きします。今回、参加してみて気づいたこと、感じたことは？

▼自宅の近くに大きな道路や交差点があるので、通る車の排ガスや騒音について考えたことはあったが今回のように道路そのもののバリアフリーや使い心地といった視点で考えたことはなかった。また身近に車イスの人がいなかったたので自分にとって新鮮でもあり、大きなできごととなった。参加後は街のあちこちにある段差やグレーチング蓋（ふた）が気になりだし「車イスならここは...？」と考える自分がいた。

▼車イスの人と一緒に歩くうちに色々な視点からものごとを見なければいけないことに気づいた。ある施設の出入口は車イスの人が長いスロープをぐるぐる回り、普通に歩ける人は目の前の階段で入るようになっていた。「健常者こそ遠回りしてもよいのでは」と感じたし、私たちの社会は障がい者など少数派の人たちに「後回し」や「我慢」を押しつけているような気がした。

ハードとハート

▼今回は障がい者の中でも私たち車イス利用者だけになったが、視覚障がい者が街を歩くときは車イス以上に大変だと聞く。白い杖を頼りに一人で歩いて木の枝にぶつかったという話も聞いた。車イスでも歩道にせり出した枝を上半身ががんで潜ることはよくある。街路樹なら役所に言うこともできるが民家だとなかなか言いにくかったりする。

▼そのような所を近所でも見かけますが、まず家の人自身が歩行者の立場に気づくことが大切。こういったことは近所でも、いや近所だからこその言いにくいもの。ハード的な整備も必要だが、そこを使ったり、周りにいる私たち一人ひとりが気づいて行動することが大切なんだと分かった。

車イスの人が困っていたら「押しましようか」と声をかけたり、車の近くにベビーカーの人がいたら「止まろう、スピードを落とそう」という意識をみんなが持たたいもの。家の前にあるプランターも歩道にせり出した枝も気づくことで取り除ける。これはハードではなくハートの問題。

▼車イスで狭い歩道を通ると電柱があつて、そこに看板がたてかけてあつたりする。看板をよく見ると防犯とか防災を訴えていたりする（笑）。電柱はハード、看板はハート。



今回の調査の結果はこんな「バリアフリーマップ」になりました。

（発行・問合せ）

草津市役所（道路課） 電話 563-1234

▼調査に行ったある公共施設で職員さんにトイレを案内してもらった。入ってみるとトイレトペーパーやダンボールが山積みにならされていて車イスでは入れない。「障がい者が利用するときは片付けてもらえないのですか」と聞くと「上司の判断を聞かない」と話された。山積みのトイレトペーパーと同じくらいがっかりした。

それぞれの立場があるから、みんなで話し合う

▼縁石の（開口部の）間隔が狭いなあと感じた。自転車に乗っていると人や障害物を避けるのに、やむを得ず瞬間的に歩道側に入りたい時もあるが縁石が邪魔をするときがあり、かえって危ない。

▼先ほどの話のとおり、市では積極的に市民の声を聞きたいと思っているが縁石の間隔を狭くするのは歩行者の安全を第一に視点を置く警察の指導もある。間隔が開いているほど車が突っ込みやすい。

このように道路は色々な視点で基準があつて立場や考え方が交差する場でもある。これらが折り合いながら整備されるが、結果的にそこに住む住民にとって不便だと感じることもある。

▼私は車に乗らないのでどこへでも自転車で行く。日ごろから、まちは段差が多くて怖いと思つていた。段差だけでなく歩道が途中で切れたり、なくなったり…。雨が降ったときは路面状況も変わり、滑ったりしないか不安になる。

▼車イスで通つていて段差や途中で歩道がなくなったりして、これ以上前に進めなくなつた場合には後戻りや遠回りをするようになる。今回のバリアフリーマップなど事前に先の状況がわかればよいのだが。

座談会を終えて、参加者の感想

▼ずいぶん行政も変わつてきているとビックリした。行政の役割があれば私たち市民の役割もあつて、自分たちにできることも必ずあるはずだと思つた。町内会でもこういった視点を持つて散歩してみてもいい。

▼グレーチング蓋（ふた）は私たち車イス利用者だけでなく、ベビーカーを押すお母さん、手押し車の高齢者、ヒールを履いている女性などもバリアだと感じていることがわかつた。みんながちょっとずつ我慢しているのかな。

▼ハードの部分だけでなく周りの人が気づいたり手伝つたりすることで解消できるバリアがあることを少しずつでも知ってもらえたらうれしい。それでも車イスに乗っていると、10年前に比べて本当に移動しやすくなつたと感じている。シニアカーなどを利用する人が多くなると、またまちが変わると思う。今回の調査やこのような話し合い、車イスに乗る私たち自身もまちを移動して自分が意識したこと人を伝えることが大切なんだと改めて感じた。



俳句散歩 夏

やはり夏の話題と言えば、あのはかなくも幽玄な光を放つ蛍でしょう。最近は、環境の改善と保護活動が盛んになり各地で蛍が見られるようになりました。本夏号では女流俳人の詠んだ蛍の俳句を見てみましょう。（解説 橋詰辰夫）

ゆるやかに着て 人と逢う 蛍の夜

桂 信子

日本人は古代から、蛍の光を人の魂の化身に例えてきました。紫式部も「もの思へは沢の蛍もわが身よりあくがれ出づる魂かとぞ見る」と和歌に詠んでいます。信子は大阪で1914年に生まれた俳人です。次の汀女とは違い、官能的な作風を得意とした女流俳人です。

この句では、蛍を見る夜、着物を「ゆるやかに着て」人に逢いに出かけたのです。逢う人は、女友たちではないようです。女友たちと蛍見物に出かけたり仕事の上で人に会いに行くなら、お化粧を念入りにし、帯をきりと締め出かける処です。今日はゆるやかに着て、心ときめかせて、出かけます。ここで着ていく物は、絶対和服でないといけません。蛍も粋なお役目を負わされたものです。今だったら、タンクトップに短パンでスマートフォン片手にお出かけでしょうか？



光漏る その手の蛍 貫ひけり

中村汀女

汀女は1900年に熊本で生まれ、官僚に嫁し良妻賢母の手本のような生活をしたが、叙情的な俳句を作り続けた女流俳人です。主婦業をこなしながら作句をして、台所俳句作家と揶揄されたこともあったようです。

さて、この句は、恋人同士が蛍をやり取りしているのではないと私は思えます。私にはこんな様子が見えてきます。子供が捕まえた蛍を小さい手に囲って「お母さん、ほらほら」と自慢げに見せに来て、手渡している様子がうかがえます。可愛いみずみずしい手の指の間から幽かな蛍の光が漏れて、ゆっくり瞬いています。母親として、蛍を受け取るのではなく、子どもの逸る心を察しながら、ああこの子も蛍を自分で捕まえるまで成長したんだなと感慨深く、子どもの心を受け取るのです。皆さんにはどんな場面が見えますか？



動植物から学んで
素敵なヒトになろう！

最終回 思いやり・支えあい・
親子の強い絆

文・絵 矢原功

稻田の緑が一段と鮮やかな季節。でも、梅雨前線が最後に大暴れし、あちこちで集中豪雨や土石流による被害が続きました。心からお見舞い申し上げます。さて、2002年から始まった「今月の花」シリーズに続き、「動植物から学んで素敵なヒトになろう」シリーズも18回目を迎え、今回で終了となります。長年のお付き合いに感謝申し上げます。次回からは新シリーズでまたお目にかかりましょう。。

暫く山歩きのお機会がなかったけど、身近なところでも感動シーンには出会えるものですね。

ボダイジュに可愛い実がぶら下がっているのを見つけ、さっそく絵を描いた。花は雨の多い季節に咲くが、その上には細長いへら状の苞葉がある。小さな雨傘のようで、「小さな思いやり」を発見した気分になれて嬉しかった。

ムクドリやヒヨドリがビワの実を食い荒らしていたのは、ついこの前のような気がする。ムクドリは群れで行動することで外敵をいち早く発見するが、ヒヨドリは夫婦で行動することが多い。庭の木の実をついばみに来るときも、大声でピー、ピーうるさく鳴いているのは見張り役である。敵の気を自分に向けさせ、その間、相棒がせっせと食事しているから憎い。

スズメが近くの高い電柱の巣からたくさん巣立ったが、今年は我が家からも巣立った。ある日のこと、横の公園から騒々しい鳥の声が聞こえた。慌てて目をやると、なんとモズが小鳥を咥えて飛び去るところを数羽のスズメが凄じい威嚇の声を出しながら追っているではないか。捕らえられたのは巣立ち間もない子スズメのようで悲痛な叫び声を出し続け、それを親や仲間たちが追跡する劇的なシーン。

親たちの猛追の中、モズは自分の体重に近いエモノを咥えて飛び去るには限界を感じたのだろう。遂に子スズメを放して飛び去り、子スズメは無事親たちに合流できたのであった。

梅雨の晴れ間に、庭で可愛い小鳥の声が聞こえると思ったら、シジウガラの巣立ち雛だった。今年は公園の木で巣作りを確認していたが、3羽が庭に来て寄り添って止まっていた。親が餌を運んでく

ると、まだ色の淡い羽根を震わせ、心温まるシーンを見せてくれた。心温まるシーンといえばテレビでの感動シーンをご紹介します。若いヒビが水辺で頭部をワニに咥えられてしまった。手足が動かせるので必死にもがき抵抗する。親ヒビが恐さにめげず

必死にわが子を引っ張りに行くではないか。ワニが咥え直す一瞬のスキができたのだろう。救出成功の一瞬に感動したものだ。

もう一つは、水牛の親子。子どもがライオンに襲われて横倒しにされ、喉笛に食いつかれた時だった。我先に逃げていた群れが舞い戻り、ライオンを取り囲むように怒涛の寄りを見せた。やがて勇猛果敢な大きい雄が攻撃姿勢をとって突っかかるように前進して威圧すると、さすがのライオンも遂に退散。こうして、水牛の子どもは無事群れに戻ることにできたのであった。

幼児虐待のニュースがあとを断たない。わが子の命を守るべき親が、無抵抗な幼児を殴るワ、落とすワ、洗濯槽に入れて回すのまであった。満腹後の寝顔も見たくないのか、食も与えず死に至らしめるとは真に無念。子どもは産めても精神的に幼稚としか言えない。親子の固い絆や仲間支えあう子育ては、動物の世界でも日常のこと。身近で学べる機会も多いだろうに。



第11回

するりと過去へ 矢倉～矢橋道

ゆっくり草津 街道物語

国道1号線の矢倉交差点。梅雨前だというのに夏を思わせる日差しの中、通り過ぎる車の音の横には涼しげな木立と静寂。今回の街道物語はこの稲荷神社から出発です。

右か左か？ 思案の地「矢倉道標」

数えてみたら29本もの朱塗りの鳥居が立ち並び矢倉の稲荷神社には朝日大明神と伊吹大明神がまつられています。向かって右手、朝日大明神の祠には膳所藩、本多家の家紋である「立葵」の軒丸瓦を見つけました。膳所藩の領土にある神社には、このタチアオイの家紋が多く使用されていることは、これまでに「紹介済みですね」。

さて伏見のお稲荷さんを思わせる鳥居に別れを告げ、東海道を立木神社に向いて歩を進めます。瓢泉堂の前で矢倉道標を見つけたところ、同じように東海道を歩く団体と出会いました。街道での出会い：徒歩や馬で移動していたころにはあたり前の光景も、移動手段が変わった今の時代では、少し気恥ずかしさというかギャップを感じたりして、時代の流れですね。



日本の朱。数えてみたら29本もありました。

道標のあるここは矢倉から大津方面に向かう多くの旅人たちが「矢倉道を歩き琵琶湖で船に乗るか、このまま東海道を陸路で勢多の唐橋を渡るか」といった選択を迫られる思案の地となったことは「勢多へ廻るか矢倉へ下るかここが思案のうばがもち」という

唄からも教えられます。

当初この道標はとても小さく、通行する人たちに見過されがちだったとか。このため寛政10年（1798年）には現在のものに建て替えられ、今では市の文化財に指定されています。多くの人を導いた道標には「右や者せ道 古連より廿五丁／大津へ船わ多し」と刻まれています。

街道・草津の名産

さて街道での出会いが当たり前だった江戸のころ、ここには「うばがもち」もありました。お餅を食べながら右か左か考えあぐねる旅人がどれくらいいたか定かではありませんが、街道沿いのお土産として人気を博した草津名物「うばがもち」の当時の賑わいは浮世絵や名所図会からも私たちに物語ってくれます。

さて今もこの地にある瓢泉堂に話を移します。ここは200年前から続く瓢筆屋さん、水・お酒・醤油などを入れるためだけでなく、中をくり抜いてつくる瓢筆は「腹がない、角がない」縁起物や装飾品として、行き交う旅人が買っていく草津の名産の一つとなりました。

草津の名産つながりでもう一つ。瓢泉堂の隣りで作られていた竹根鞭です。耳慣れない人もいるかも知れませんが、竹根鞭は乗馬の鞭、急須の取っ手、カバンや傘の持ち手、ステッキなど様々なものに使われる重宝ものでした。実はこの竹根鞭、明治24年（1891年）の大津事件でロシア皇太子に切りつけた犯人を取り押さえる際に使われたことや、チャップリンが愛用していたステッキも草津産と聞きちよつとビックリ。教科書に出てくる歴史や銀幕の大スターと草津がつながっているとことを知ると急に身近に感じるものだから不思議です。

矢倉と立木神社のつながり

さて東海道に別れを告げ琵琶湖へと向かう矢橋道へ。約3km先には「矢橋の帰帆」で知られる矢橋港があります。「勢多を廻れば三里の回りござれ矢橋の船に乗る」と多くの人が舟で大津に渡りました。この矢橋道も今はJRでいったん分断されているので、今回は少し回り道をして先へ進みます。JRをくぐると森につつまれた若宮八幡神社です。暑さで少しバテ気味だったせいも、木陰をつくる木々のおいほッとしみます。この若宮八幡神社は市内7か所に残っているサンヤシ踊りが奉納される神社となっています。

少し前には森だったという住宅地を抜けると「大塚」、その名のとおりの大きな塚があったことに由来した地です。フェンス越しに見えるこんもりとした塚は

立木神社の宮司を代々勤めてきた小野家の墓です。立木神社は草津村と矢倉村の氏神で、767年の創建以来、小野家は38代にわたり宮司を勤めてきました。第38代神官である小野秀圓の子は日本新聞学会の設立に尽力し、ジャーナリズム研究の先駆者として有名な小野秀雄さんです。

不思議なお地蔵さん

光泉高校の裏手を歩いていくと北川（別名「子守川」）にかかる子守橋にきました。この地には治郎兵衛地蔵の言い伝えが残ります。天井川だった北川では氾濫や疫病が続ぎ、この村の治郎兵衛さんが代表して金毘羅参りをするようになりました。その帰り道、摂津の国の地蔵堂で休んでいると「村を助けてやるから、わたしをおぶって行きなさい」と地蔵さまに命じられます。不思議なことに石のお地蔵さまは何故か軽くて、この地まで運ぶことができ、それ以来、村には水害や疫病がなくなったとのこと。

子守橋を瀬田方面に渡ると、左手には江戸時代に創建された猿田彦神社。「街道の神・旅の安全を守る神」として有名な猿田彦神社ですから、矢橋道と瀬田から矢倉へ続く古道との交差点であるこの地にあるのも納得です。本殿の周囲をぐるりと回ると冒頭の「右離れ立葵」の軒丸瓦。でも時代により少しずつデザインが変わっており、じっくり見るとまちがいないように見つける楽しさ。木立を渡る清々しい風を感じながら神社を散策してみたいかがでしょう。

過去と未来の交差点

北川に沿って南草津駅に出るとなんだか一気に現実を引き戻された気になります。駅前広場にある

猿田彦神社の入口。木々を揺らす風が涼を感じさせてくれる。



「夢・希望・未来」のモニユメントのとおりに、この表情はまさしく新しい草津の一面なのだと感じます。国道へと向かうゆるやかな弧を描く歩道横に安藤広重の浮世絵「野路の玉川」が描かれたスチール版を発見。そう、そこは矢倉のお隣のまち玉川、このあたりの東海道は松並木が続いていたという風景が信じられないくらいの時代の流れで、それはまるでタイムスリップしたかのよう。

今回歩いた矢倉から矢橋道には、あちらこちらで言い伝えやいわれが残し、現在まで語り継がれています。お話に耳を傾け当時の情景を思い浮かべながら歩くと、目の前にある風景にも奥行きを感じることが出来ます。東海道と矢橋道の分岐点にある道標は、するりと過去へ出かけられる草津のパワースポットなのかもしれませんね。（荒川茂美）

（荒川茂美）

街道物語 コラム

決闘！矢橋街道

矢橋街道ではこんなあだ討ちのお話も伝わります。

一文政9（1826）年、備中（岡山県）で相撲頭取の力右衛門が弟子の岩之助とその仲間と切られる事件があった。力右衛門の弟・光蔵や弟子たちは備中からいなくなった岩之助を捜し続け、やっと草津宿で駕籠かきをしている姿を見つけ、10年後の天保7年（1836）にあだ討ちを決行した。芸者を連れ立ち大津への道中、相撲取りの大男たちが刀を振り回しての立ち回りは矢橋街道が舞台となり地元にも伝わり『膳所藩郡方日記』にも記されている。

草津市史のひろば増補版「くさつこぼればな史」より

新コーナー

熊谷栄三郎の

徒然草津

つれづれくさつ

第1回

琵琶湖の上は空

熊谷栄三郎

十五、六年も前のこと。葉山川付近を散歩していて、突然気が付いた。琵琶湖の上は、そっくり広い空であるということ。ビルや電線で区切られた貧弱な空ではなく、本物の空であるということ。

しかも湖周の平野の上にも手つかずの空が残っているため、湖の空とあいまって、近江の空はますます広い。鈴鹿や伊吹など遙か県境の山々も、むしろ近江の空の広さを強調してくれている。

湖周の平野の上には手つかずの空 (写真：大條)



るかのようだ。そうか、私達の頭上には、内陸には珍しい立派な空があるんだー。そう気付いた。

大発見した気分だった。草津に住み始めて三十年たっていたのに、なぜ分からなかったのか。自明すぎることでからに違いない。

故郷は丹波の山里である。帰郷のたび、ムラを取り囲む山並みに癒されて帰ってくる。なのに空の開けた琵琶湖畔にたどりつくとき、意外にもみるみる心身が解放感に満たされていくのが分かるのである。無意識に人は狭い空に抑圧されていて、広い空の下に来るまでは、そのことにさえ気付かないらしい。

近江は湖国、などというが、空の国といってもいいと、今では確信している。根拠はいくらでもある。八日市伝統の大仏、世界に通用する国友の花火、その地で江戸時代に天体望遠鏡を作り太陽観測をした国友一貫斎の偉業、余呉の天女の羽衣伝説、米原・天の川

の七夕伝説…。みんな、広い空あってこそこの文化だ。五月に国の重要文化的景観に選定された高島市の「針江、霜降の水辺」だって、広い空があつての景観ではないか。

近江の空を大切にしたい、と毎日散歩をしながら思う。

編集後記

▼雷鳴一過、一気に夏到来。暑い!!半世紀近く前、アメリカのデスバレーをヒッチハイクした時のポスターに「車、水、帽子などなしでの外出は厳禁。守らなければ、このように。(牛の骨の全身写真)」それに比べればまだましか。(大條) ▼テレビで「桑の葉茶」を小学生が作り地域のお年寄りに贈っているのを見て、小生も試作しました。味良し、香り良し、効果の程は現在不明。薬効は老化防止とのこと、残念ながら老化回復の効果はないようです。(橋詰) ▼まめバスがどこでも、いつでも走っていたらいいだろうなあ。(中井) ▼▼窓から見える早朝の風景、色、光、においまで夏です。ウレシイ!子どものころの大好き夏休みが忘れられないのかワクワクしてしまいます。条件反射?(大村) ▼「どこまでも行こう 道は険しくても～」という古いCMの歌を思い出した。まちなかは険しすぎる(荒川) ▼どんなにハードのバリアフリーが進んでも、植木鉢一つ、看板一つで残念なことになる。う～ん、気にしよう(茶木)

市民編集ボランティア募集!

コミュニティくさつ編集部

(財)草津市コミュニティ事業団内

〒525-0037

滋賀県草津市西大路町9-6 (まちづくりセンター内)

電話 (077) 565-0477

ファックス (077) 562-9340

メール com-com@mx.biwa.ne.jp

URL http://www.kusatsu.or.jp/

community



再生紙使用

～地球にやさしいまちづくり～